感動した全国大会

白土　紀子

10月25日（水）から27日（金）の3日間、秋田県の男鹿半島・大潟ジオパークを中心とした「日本ジオパーク活動開始10周年記念」の標記の大会が秋田県で開催されました。

テーマは「あしたへ～日本のジオパーク！東北から発信！～」で、秋田県だけでなく、東北地方（8地域）あげてのジオパークを核とした地域活性化と「あした」を考える大会にしたいという主催者・関係者の意気込みが随所に感じられました。

初日の開会セレモニー、基調講演、ポスターセッション、ブース展示、パネルディスカッションの会場は男鹿市民文化会館で、全国の自治体関係者・研究者・ガイド等のジオパーク関係者と地域の方たちおよそ800人あまりの参加者で場内は熱気に溢れていました。

開会セレモニーでは男鹿市と大潟村の4名の中学生により男鹿半島・大潟ジオパークの紹介があり、ユーモアを交えながら「大地の歴史や人の暮らし」を自慢げに発表する中学生に感動の大拍手でした。

この後は基調講演（別紙）、パネルディスカッションへと続きました。パネルディスカッションのテーマは「ジオパークを教育に活用する視点と地域の明日への投資」で、基調講演の講師の林信太郎氏（秋田大学教授）をコーディネーターに、5名のパネラー（大学教授2名・大学学術研究員・小学校教員2名）による様々な教育活動の事例や見解が熱く提示・報告され、「教育におけるジオパークの役割」を再認識しました。発表や全体会の進行役他、場内の随所に中学生や高校生が活躍している姿が印象的で、日頃の教育実践と“あした”を実感した思いでした。

2日目・3日目の分科会、ジオツアーもお互いの交流を深めながらの感動の連続で、様々な視点から「人とエコと大地のつながり」・「ジオパークのこれからの年」を考えさせられる中身の濃い充実した3日間でもありました。

大地のめぐみ食い倒れ！絶景押し倒れ！
～五感で楽しむ半島と干拓地ぐるに参加して

茂木　洋佑

尾池JGC委員長がジオパークは“見て食べて学んで楽しむところ”と話されたのを読んだことがある。正にそのものであったと思います。

このジオツアーのテーマの説明に“「食」と「絶景」”をテーマとしたコースです。三方が海にかこまれた”半島“と生誕約50”年である新生の”干拓地“が作りだす絶景ポイントを目で見て、紅ズワイガニやハタハタ、カボチャなどの海・大地の恵みを舌で味わい、食と絶景の背景にある物語を耳で楽しんでいただきます。

温泉宿が水揚げする鮮度抜群の海の幸も堪能しながら、男鹿半島・大潟の食と絶景を五感で満喫しよう！とあったので藤身さんと是非ともこれに参加しようと応募しました。

いろいろありましたが先ず感心したのはジオ初日のバスに乗って一時間、入道崎という絶壁、高台の燈台前の広い芝生から入り日を見ようという企画でした。日本海に間もなく沈む太陽をに見るのは気持ちのいいもの、ここまではよくある企画。ここでバスを降りて海と反対側のお店の前に並ばされた。何とどんぶりに熱々のショッツル鍋が配られたのです。海の向こうの入り日を芝生に座って食べながら見ようというのです。雲が少しありましたが最高の入り日鑑賞です。しかもそのハタハタの鍋の美味しかったこと、だしがきいて塩加減が何とも言えないものでした。広い芝生の上に凡そ40人の参加者は大満足の様子でした。

帰りに担当の高橋君に聞いたらにいつも売っているものでなく、この食い倒れツアーのために企画してもらったとのことでした。そこまでやるのかと・・。

この後ツアー終了まで心のこもった“食と絶景”が続いた二日間で、参加者大満足のエクスカーションでした。

基調講演について

房州文子

「ジオパークを楽しく料理しよう」―キッチン火山学―という題名で講師は秋田大学学術研究院教育学研究科教授林信太郎氏によるお話しでした。

孫と私は十年来の林先生のファンで、先生の著書「世界一おいしい火山の本」が大好きです。キッチンにある身近な材料を使って実験をする方法が載っていますので、今回先生にお会い出来るのをとても楽しみにしていました。

今回のお話しの幾つかの実験は、この本に書かれているものをジオパークにあてはめたものでした。男鹿半島の「一の目潟」は天ぷらの揚げ玉を作る様子と同じ。阿蘇のカルデラはコンデンスミルクとココアで再現出来るなどです。勿論、新しい実験も盛り沢山。キッチンペーパーにココアと粉砂糖、クリープで付加体の実験。最後はカップに入れてお湯を注いでココアが出来るというオチまで。

小学生にとても人気のある先生ですが、「プラタモリ」#81十和田奥入瀬で案内人として出演されています。

そこで裏話、「プラタモリ案内人の輪」というのがあるそうで、ジオパークネットワークが活躍しているそうです。

講演後、ファンである事をお話しして、持参した本にサインもしていただきました。